

◇ 目次 ◇

特集 ラジモハン・ガンジー氏来日
 lofC International 会長
 インド AP ボランティア体験
 IC 国際会議報告

【予告】 APYC
 【予告】 日中韓青年フォーラム
 学校訪問プログラム
 IC 今月のひとこと

“今、日本人に求められる世界での役割とは” 創造力と勇気を持って前進しよう

5月12日午後2:00～3:30 憲政記念館 講堂
 主催 (社) 国際 IC 日本協会 後援 (財) 尾崎行雄記念財団

<美しい国、日本を訪問して>

今回日本にお招き戴き、皆さまにお会いでき大変光栄に思います。お世話頂いた方々皆さんにお礼を言いたいと思います。会場をお見受けしたところ、お名前を思い出せない方もいらっしゃると思いますが、懐かしい方々も大勢いらっしゃいます。森山真弓理事長、矢野様、橋本様、羽田孜夫人、渋沢雅英様、住友夫人がいらっしゃいます。本当に今日お越し下さり有難うございます。悲しい事は、旧知の方がお亡くなりになられている事です。相馬雪香さん、住友義輝さん、愛する国に来てこの方々の事を考えると、言葉にならない想いがあります。今日、この会場に入る前、尾崎行雄翁の銅像の前で足を止めました。尾崎翁の娘さんの相馬雪香さんご夫妻にお会いし、何度もお家に招かれました。この方々が私に親切にして下さったのは、私がマハトマ・ガンジーの孫だからです。祖父は日本に来た事はありませんが、孫の私のこのような姿を見て、どこかでうらやましく、とても喜んでくれることでしょう。今日は特に相馬雪香さんのことを思い出します。雪香さんは、日本や世界の事を本当に想いやる人だと思いました。彼女は完璧ではなかったかも知れませんが、悲しみ、苦しんでいる人を見て想いやる人でした。多くの人にお会いしましたが、相馬雪香さんほどの人にお会いした事はありません。

私はこの度、IC インターナショナルの会長に任命されました。各国を訪問しチームの仕事をサポートしようと思っています。そのため、アメリカでの大学での仕事を一時休んでまいりました。今回の目的は、他の国々の人々が仰る事を学びたいと思ってやってきましたが、どこへ行っても講演をして欲しいと言われてしまいます。本当は各々の国で、皆さんがどういう考えをお持ちか、どういう希望を持ち、どのような祈りを持っているのかを伺いたいと思っています。質問の時間にそれを皆さんからお聞きしたいと思っています。今回の旅では、色々な国を回ってきました。どこも美しい世界ですが、それと共に痛みを感じる世界だと思っています。過去10年間にアフリカのコンゴでは、500万人の人々が殺されました。ケニアでは、選挙後の民族の衝突で3日間で1200人も人が殺されたそうです。南アフリカでは、折角の独立を勝ち取りましたが、エイズや殺し合いで亡くなる人が多くいます。母親達が何処かに消えてしまい、ティーンエイジャーや祖父母が子供を見ているような状態です。確かに人種差別はなくなり、法の下には平等になったとは言え、エイズの蔓延やエイズがない事で、人々は疲弊しています。

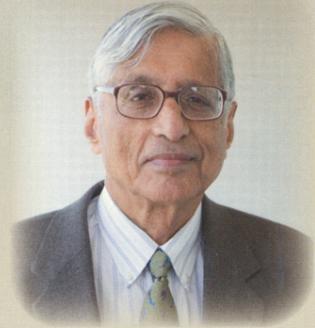
日本の皆さまと世界の平和について、何をしたら良いかどのような役割があるかと考える時、このように多くの人々が痛みを持っている事を考えて欲しいと思います。

日本におきましても、多くの日本人が痛みを抱えていると思います。日本の経済が、厳しい状況である事は知っていますが、日本の経済が健全である事が大変重要で、世界に大きく影響しています。多くの方々が考えている事と思いますが、道義的な根っこがあって、経済は成長していくと思います。今の世界で良くないと思われる事は欲望が世界を陥れ支配していることです。30年前であれば共産主義の台頭した時代で、国家に統制された経済は、上手く行くはずがないと思われていました。しかし近年は、欲望を追求しそれに支配された経済は、やはり上手くいかない事を、私達は知りました。新しい方法が必要です。確かに政府も銀行も、今の経済をどの様に発展させたら良いか考えなければなりません。けれどそれだけでなく、国民一人ひとりが、道徳的な勇気と創造性を持って進まなければならない時代となりました。

<日本の素晴らしさ>

自信を失ったと言う日本の皆さんにお伝えしたい。日本の持つ素晴らしい点を4つ挙げます。

第一番目は、戦後の日本の回復についてです。若い方は知らないかも知れませんが、戦後わずか25年の間に、荒廃した国を、素晴らしくよみがえらせた事を世界に示しました。復興しようと言う日本人の戦いの精神は、世界でも例を見ない素晴らしいものだと思います。私は何度も日本を訪れましたが、戦後すぐに来日した時以来、何度もその変貌ぶりに驚きました。インドの人々は、日本人をとて尊敬しています。なぜかと言えば、日露戦争に遡りますが、その頃私の祖父は、トルストイを尊敬していました。1906年ガンジーは、非暴力を考えていて、南アフリカの新聞“インドの意見”の編集に携わっていました。ここで、日本がロシアを下したことを知り、大変驚きアジアの人々に大きなインスピレーションを与えたと語りました。そして世界の人々が第二次大戦後の復興振りに感動したのです。それだけでなく、日本の指導者の方々が、戦時中に犯した行為について、アジアの各国に謝罪をした事にも驚きました。ある時、フィリピンでそ



ラジモハン・ガンジー
 IC インターナショナル会長

の通訳をされたのが相馬雪香さんでした。心からの謝罪をしたと言う事が、資料に残されています。この謙虚な謝罪こそが、偉大な政治的な行為であると思います。

第二番目に、世界に知られる通り、“日本=質の高さ”というイメージがある事です。全ての事が騒音もなく、静かに瞬時に上手く行く、そして完璧であることです。インドでは真似出来ません。何もかも上手くいきません。騒がしく、ほこりにまみれています。インドでも良い事が無い訳でもありません。最近のインドで良かった事は、地下鉄が出来た事です。ニューデリーの地下鉄は最高です。街は熱く騒がしい。地下鉄は静かで冷房が効いています。実はこれも日本の技術による貢献です。もしニューデリーにいらしたら、地下鉄に入った方が良いですよ。インドの街は日本の車で一杯ですし、カメラやその他全てがあります。“日本=質の高さ”は、世界中の人が認めている事です。

第三番目に、日本は空気がきれいなことです。1億人も人がいて、産業も発展していて国中の空気がこれだけきれいな事は、難しい事です。これは日本の成長のなせる業と言えます。

第四に、礼儀、思いやり、もてなし、親切など日本の習慣の素晴らしさは際立っています。私が今泊まっているホテルの受付の方々は、いつも私達に最敬礼でお辞儀をしてくれます。日本は精神的にも景観としても、素晴らしい文化を持った美しい国だと思います。



▲鳩山首相(当時)表敬訪問の様子
 写真提供 Mike Brown(lofC)

<心の声を聴く>

このような四つの日本の業績がありながら、自信を失う事はありません。誇りを持って下さい。昔、大東亜共栄圏を作りたいと言う話がありました。これは悲劇的に間違っていました。どの国でも同じ事ですが、一国が他を支配する事があって良いのでしょうか。過去の日本が、アジアを制しようとした望みは過ちでした。今日本で、アジアの共同体を作りたいと言う素晴らしい構想を持った人がいれば、尊敬します。東アジア共同体と呼ぶのは良いと思います。日本と中国、韓国は自然に一体となる。中央アジア、西アジア、東南アジア等、アジアは

とても大きな大陸です。一気に共同体を作るのは難しい事です。日本へのお願いは、アジア全体の共同体を作ることを忘れないで欲しいと言う事です。鳩山首相にもお願いしました。ICでは人を中心に共同体を作ろうとしています。ICの小さなスケールではありますが、国家ではなく市民社会のレベルでの共同体を作る努力をしています。この小さなスケールでの市民社会の構想は、私の長い間の夢です。35年前に出来た“Song of Asia (アジアの歌声)”のグループ、アジアの人々が皆で一つの歌をうたうと言うミッション、多くの人達とアジア共同体を作るというミッションが生まれました。これは反西欧ではなく、独立したアジア共同体です。この目的は、①アジアの共同体については、デモクラシー、個人の権利、集団での権利を保つこと ②アジアの共同体の原則 ③貧しい人々、弱い人々、女性のシンパとなる。きれいな空気にする。原則の中で大切な事は、献身する事、自らの良心の声を聴く、心の声を聴く事です。私の祖父も言っています。心の中の絶対者にのみ従い YES とする、他の独裁者には NO とする事。

私には忘れられない思い出があります。私が12歳の時、祖父は78歳でインドは最低の状況にありました。イギリスから独立を勝ち取った後、イスラムとヒンドゥーの対立が起り、祖父はそこに和解をもたすために努力していました。ある日、広場で祈りの会をしていた時、イスラムの人はコーランを唱え、ヒンドゥーの人は祈り、キリスト教の方は讃美歌を歌うと言う時に、私は祖父の隣に座っていました。祖父は、コーランを唱えられるのはいやだと文句を言う人がいると、コーランが嫌だという人にはヒンドゥーの祈りもやめてもらいますと言いました。それに対して若い人が声を荒げた時、祖父はこんこんとさとし、話し合いをしていました。私はボディガードもいないし、荒っぽい人が来て祖父を殴ったらどうなるのかと心配しました。その時祖父は勇気を持って信念を曲げない事、従うのは自分の中の小さな声だけと言いました。

私が若い頃、インドで盛んなクリケットの上手な或る友人が隣に住んでいました。彼はバッティングもピッチングも上手で人気がありました。私はいつも彼が失敗した時に限って家を訪ね、今日はどうして上手くいかなかったのかと、嫌味を言っていたのです。私は21歳でした。そのうち私の心中の小さな声が、「君が羨ましくて嫉妬していたんだ」と告げるようささやきました。そこで彼に正直になると、彼もまた、自分の事を羨んでいたと話してくれました。その事をきっかけに、私は、相手を偉大にするために生きようと決心しました。祖父は有能な人達が上手くやった時には褒め、批判された時には守っていました。私も祖父のように生きようと思いました。

今、世界中に汚職があります。汚職には厳しく対処するべきです。汚職した人が、訴追される前に正直になれば、汚職はなくなるのではないのでしょうか。16歳の時、ガンジーの末息子である私の父は編集者で、1階は事務所で家族は最上階に住んでいました。そこに若い記者が父に渡して欲しいと号外用の記事を持ってきました。パキスタンの首相が銃撃されたという記事でした。私は「次は当然首相が亡くなった」という記事になりますねと気の利いた言葉のつもりで言ってしまいました。そして私の中にパキスタンに対する偏見があることに気づき我ながら恥ずかしく思いました。その後、私はヒンドゥーとイスラムの和解のために自分の人生を使おうと決心しました。世界に必要なのは和解に力を尽くす人々です。忌憚なく申し上げます、日本の役割を小さくとどめたいと思う人がいます。そういう人は、「過去の日本の行いを見れば、日本は指導的な立場になるべきではない」と言うでしょう。また、「日本のように豊かに暮らしている人達には、我々のような立場の人々の気持ち分かるはずがない」と言う人達もいます。このような人たちの言葉に耳を貸してはいけません。また成功したり目立ったりしたくないという謙遜な気持ちも捨てて下さい。日本の皆さんは、人がどう思うかということに気を必要はありません。他の人のために一生懸命やるのであれば、たとえ失敗してもそのことが人を救い癒すことであるならば、決してくじけてはいけません。勇気を持って進んでいくことです。皆さんにいくつかの提案をしたいと思います。①できれば沢山の子どもを作ってほしい ②それが出来ないならば、多くの優秀な移民を受け入れる事 ③英語を勉強して下さい

外国人が変な日本語を話しても変に思わないでしょう。世界で仕事をしようと思えば、日本には美しさ、優しさ、快適さ、安らかさがあります。これは日本の大きな宝です。一生日本の豊かさの中に浸っていることもできます。しかし、それは皆さんへの誘惑でもあり、罠でもあります。でも皆さんの良心は世界の痛み気づいているでしょう。必ず、良心の声に従って、世界の痛みを癒す事ができるでしょう。

*ガンジー氏来日記念講演は、社団法人東京倶楽部のサポートを受けて実現いたしました。ここに改めて感謝の意を表します。

インド IC センター・ボランティア体験

MY TRIP TO INDIA (マイ・トリップ・トゥー・インド)

柳橋 奈津子
(東洋大学法学部3年)



今回の2月28日から3月28日の1カ月間のインドでの生活は、私にとって20年間の振り返りをし、今後のビジョンを構築するきっかけとなる素晴らしい時間でした。

昨年の夏に、私は第6回日中韓青少年フォーラムに参加しました。その時に、私は私たち青少年の役割を考えたことで、海外への興味が高まるのを感じました。それからインドでのボランティア活動にも興味を持ちました。しかし、やりたいという気持ちと不安が交錯していました。

インドでは、宗教について、国の抱える問題の解釈について等、何度か悩むこともありました。というのも、セッションの中でも食事の時間でも日本ではあまり感じない宗教の存在を感じ、チベットの友達からチベットに関わる話を聞き彼らの力強さを感じ、韓国の友達と毎晩のように日韓の問題点について話し合い、自分達にできることを考えていたこと等、日本にいただけではあまり感じる事のなかった不思議な好奇心や、興味を感じると同時に、自分の無知を痛感したからです。発展途上の地域にも行かせていただきました。ヒンディー語での説明だったため、現地の方の話を理解することはできなかったのですが、一緒に食事をして暮らしの一部を見たことで、日本で抱いていた発展途上の地域の人たちへの憐れみの目はなくなりました。彼らは、現状に満足はしていないのかもしれませんが、決して憐れみの目をむける対象ではないと感じました。そして、自分が日本でできることとは何だろうと考えました。

またセッションの中で、「Purpose」、「Will」、「Dream」は異なるものだと言いました。今年就職活動を始める私にとって、この内容は私の中で一番強く残っています。「Purpose」とは「情熱」につながるもの、「Will」とは「何かしたいという欲求」であり、「Dream」とは「ビジョンの一部」だという違いを聞き、これらを混合しがちであったことに気がきました。私の体験を書ききることはできませんが、たくさんのことを学び感じ考える時間でした。帰国した今、私の2年間の大学生活を振り返りますと、1年生の頃、新しいことに踏み出す勇気ももてずにいました。そんな自分に嫌気がさし2年生に進級する際、まず何かやってみようという気持ちで日中韓フォーラムに参加しました。そこからインドでの生活までの時間を、不安はありましたが私は駆け抜けてきたという表現が一番あうのではないかという程、いい意味では必死に、悪い意味では周りが見えていない時間を過ごしていました。

その状況で、インドでのボランティア活動に参加し、「静かな時間」で心の声に耳を傾け、日本とは異なる時間感覚の中で生活するうちに、2つのことを痛感しました。

1つ目は、冷静に自分自身を含め、ものごとの本質をみることの大切さ。これは、セッションや、発展途上の地域に行ったことを通して感じたことです。

2つ目は、今を一生懸命に楽しむこと。これは、私は必死になりすぎるあまり、先の計画を立て、何をしても時間に追われている感覚を持ち、今という時間を感じていなかったと思ったからです。インドで出会った友人と過ごす時間は、生き生きとしていたという印象があり、今は国が離れていますが、今も同じ時間を過ごしていると思えば自分の時間を振り返っています。今、私は日本のIC協会のみなさん、インドのセンターの方々、センターで出会った友人への感謝を自分の経験を今後に生かすという方法で伝えられたらと思っています。

*インド IC センター・ボランティア&インターンシッププログラムのご案内

国際IC日本協会では、インドICセンターにて《インターン生》及び《ボランティア》としてICの会議の運営をサポートする活動を行い、それを通して物質的な価値を超えた精神活動の大切さ、国を超えた英語でのコミュニケーション・スキル(語学)などを学んでいく機会を提供しています。ご希望の方には、随時説明会を行っております。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

第33回 IC 国際会議レポート

世界に目を向けよう！一人ひとりのチェンジ&アクション

2010年5月15日(土)・16日(日) in マホロバマインズ三浦



今年の国際会議は、60名近い参加者のうち約3分の1は外国人の参加者が占めていた。ラジモハン・ガンジーご夫妻、韓国からキム・サンウォン MRA/ IC 会長、ヤン・チャンヨン 副会長、チャ・クアンスン 事務総長を始め、ノーベル平和賞候補のパク・チョンス女史、シン・フェジェ女史、オーストラリアからマイク・ブラウン氏、海外ボランティアチームは、ベトナム、カンボジア、ケニア、韓国、中国の青年達が来日し、会議の中心となって活躍した。各国代表の挨拶の後、マイク・ブラウン氏の基調講演では、長年インドのパンチガーニ(インド研修センター)で青年を多く育ててきた経験から、各国ICの活動について話があり、色々な国で若者のリーダーが現れ、活躍している様子が映像でも披露された。午後にはガンジー夫妻の講演が行われ、「日本人は自信と勇気を持って、世界のために働いて下さい」というメッセージを託した。講演の後、グループディスカッションでは、約10名のグループ毎に本音の話し合いが行われた。



▲ AP チームによる歌と踊りの披露

参加者からは以下のような率直な感想が寄せられました。<ガンジー夫妻のお話>については、「真理・本質を追究する事、良いと思う事に命を捧げられる、和解・赦し、戦略を持つ事の意義、解らない事は解らないという率直さを持つ余裕が心に残りました」。

「ガンジーさんは、「日本と日本人に今ある物全てに感謝して気づき生きなさい」と、優しく語ってくれたのが嬉しかった」。

<グループディスカッション「よりよい世界のために一できることから始めよう」>では、

「初めての人の前で、素直に自分の事を熱く語れる、また他の人の話にも耳を傾け、何かを頂ける意味のある時間でした」。

<私のチェンジ&アクション>体験発表では、「ケニアの青年、カンボジアの青年のスピーチに感動した。辛い体験を通して、ICの活動に参加され、多くの若い方々に勇気を与えられる事と思います」。

<全体会議>については、「韓国のチョンさんが、パク・チョンスさんの話を聞いて心を動かされ「若い人を育てるにはどうすれば良いか、という大人の願いは、大人が一生懸命生きている姿、働いている姿を若い人は見たいし、見るだけで十分です」と発言されたのを聞いて、ほっとしました。私も一生懸命生きなくては！」



▲文化のタベにて 全員参加のハワイアンダンスで癒しのひと時を



▲講演後のガンジー氏。リラックスした表情が伺えるのも、宿泊を伴う国際会議のスタイルならではの



▲昼食後の歓談中に記念撮影 今年も天気に恵まれました

第16回アジア太平洋青年会議 (APYC) のお知らせ **【予告】**

今年も若者向けの国際会議 <APYC> が以下の日程で行われます。

期 間 7/30 ~ 8/4

場 所 マレーシア MBS レクリエーション・訓練センター

対 象 世界各国からの若者たち

プログラム 講演・グループシェアリング・ワークショップ他

ウェブサイト www.apyc.iofc.org

第7回東北アジア青年フォーラム参加者募集！

日中韓の大学生を対象として開かれた東北アジア青年フォーラムが、本年も開催されます。日中韓のメンバーによるグループディスカッションでの率直な話し合いや楽しいレクリエーションの時間、そして、それぞれの国の文化を分かち合う「伝統文化公演」等での交歓を通してお互いの距離がぐっと縮まります。韓国や中国に一生の友人を得る機会となるフォーラムに是非、ご参加下さい。

期 間：2010年8月17日(火) ~ 22日(日) (5泊6日)

場 所：韓国ソウル

募集人数：日本人大学生・大学院生 25人

テーマ：『東北アジアの未来と青少年の役割』 参加費 6万円

詳しくは(社)国際IC日本協会事務局までお問合せ下さい。TEL03-5429-115



学校訪問

「国際理解と心の教育プログラム」
一人を育てる心の交流

世界に広がるネットワークを活かし、当協会ではリーダーシップとコミュニケーションの訓練を受けた世界各地からの青年たちのグループによる学校訪問・国際交流のプログラムを実施しております。2002年以来、小田原市や東京の小中高校や専門学校・大学等を訪ね、国際理解の促進のために各国の文化紹介や母語での自己紹介を併せて、歌やスキットを楽しく聴き、お話を聴くことを通じて、お互いに心を開いて話し合う場を提供してきました。

今年はずでに5/21の国際基督教大学に始まり、5/25 桐蔭横浜大学、5/27 杉並区立省掛小学校等を訪問しました。このプログラムは7月初旬まで行われ、東京以外にも小田原の10の小学校、福岡の大学・各種学校、広島島の修道大学等を訪問し、日本各地で心の交流を深める活動を行う予定です。

生活の中で役立つことば①

「耳は2つ、口はひとつ」

：自分の話ばかりせず、人の話に耳を傾けよう。

@編集後記

「日本を愛するガンジー氏の温かい言葉と穏やかな眼差しに感動！」

皆様からのご意見ご要望をお待ちしています。

広報委員：海老原真美、岡本さくら、高橋久子、宮本由紀子、チェ・ヒジン、長野清志、弓場睦